初年次における図書館ガイダンス

図書館メディアセンター
高橋 瑞江・佐々木 俊介

図書館メディアセンターでは図書館利用教育の取り組みとして、新入生に向けて様々な形で図書館の利用案内や検索について説明する機会を持つべく取り組んでいる。まずは2012年度の例を中心にその取り組みについて紹介する。

(1) 新入生対象図書館利用説明

新入生オリエンテーション期間に図書館の説明をする時間をいただき、利用説明を実施している。今年度は、以下について4月のオリエンテーション期間に実施した。

【町田キャンパス】
- 大学院（大学院新入生対象（約100名参加）オリエンテーションの中で、簡単な図書館利用案内（約30分間））
- 総合文化学群（総合文化学群新入生対象（約280名参加）パワーポイントによる図書館案内・利用説明（約20分間））
- 健康福祉学群（健康福祉学群新入生対象（約230名参加）パワーポイントによる図書館案内・利用説明（約20分間））
- 留学生別科（留学生別科生対象（16名参加）パワーポイントによる図書館案内・利用説明と館内ツアー（約90分間））
- RJ留学生（ＲＪ留学生対象（58名参加）パワーポイントによる図書館案内・利用説明と館内ツアー（約60分間））

このようなオリエンテーション時での説明は、口頭説明やスライドによる説明であり、図書館を利用する最初のきっかけとしての場であると考える。図書館にはどのような資料があり、何ができるのかといったことを知ってもらうこと、使ってみようという気持ちになってもらうことが目的である。検索方法についても簡単に紹介するが、やはり実際に必要な段階でないと説明を聞いてもどのような場面で必要になるのか目的意識が持てないため、関心も低く具体的には理解できない。しかし、四谷キャンパスの大学院生については、

このオリエンテーション時に約 60 分程度かけて、具体的な検索説明と利用方法を説明している。

【四谷キャンパス】

- 大学院新入生対象（36 名参加）図書館利用説明、および情報検索の説明（約 60 分間）

四谷キャンパスの院生については、説明の機会がこのオリエンテーション時しかないため、図書館メディアセンター職員（以下、職員）が四谷まで出向き、利用案内と資料の検索方法、また院生がよく利用する文献複写の申込方法と論文検索について具体的に説明を実施している。また、町田キャンパスの院生についても強制的ではなく希望者参加型であるが、オリエンテーション期間中に検索や図書館ツアーを実施する。

(2) 図書館ガイダンス

授業中に実施する図書館ガイダンスは、授業との繋がりを感じられるものであり、図書館案内だけでなく、資料の探し方や検索方法など、より具体的な内容となってくる。今年度は、ビジネスマネジメント学群においては、2 回にわけて大教室にて実施した。

- BM 学群新入生対象（約 450 名参加）パワーポイントによる図書館利用説明と情報検索の説明（約 75 分間 ×2 回）

しかしこちらは講義形式であり、参加している学生たちも集中できない様子がうかがえた。夕方の 5 時限という時間帯でもあり、疲れて居眠りする学生も散見された。説明を行う職員が、このような講義形式でのプレゼンテーションスキルに習熟していないこともあるが、今後もこのような役割を職員が担う機会を増やしていきたいと考えている。そのためにも、職員のプレゼンテーションスキルアップが必要であると痛感している。

- リベラルアーツ学群のリベラルアーツセミナー（以下、LA セミナー）における図書館ガイダンスは、毎年実施しているが、春学期の、月、火、木、金の 5 時限に、1 ～ 3 クラスずつ実施（計 61 クラス 853 名参加）した。図書館ツアー、PC 教室での情報検索の説明および実習（約 90 分間）。

LA セミナーでは、授業の中でレポート作成に入るということもあり、実施するタイミングや目的意識をきちんと持っていないとその取り組み姿勢が違ってくると感じている。

内容については、図書館ツアー、検索実習（OPAC 検索、新聞・雑誌記事検索データベース、辞書・事典データベース、他、希望による）である。新聞記事検索データベースでは『聞蔵Ⅱ』（朝日新聞）を中心に紹介。『日本の論点』をテキストとしている教員も多く、教員の希望によって、どのような内容を案内するか多少違ってくるが、そのクラスにおける要望をできるだけ受けて実施している。

今年度は教員アンケートも実施した。

質問項目は、「１．内容は理解できましたか」「２．説明の仕方はわかりやすかったですか」「３．ガイダンスはLA セミナーの授業に役立ちましたか」「４．その他、ガイダンスについて気づいたことをお聞かせください」「５．今後のガイダンスについてのご意見・ご要望をお聞かせください」の５つである。

「１．内容は理解できましたか」という質問には、「大変よく理解できた」と「理解できた」への回答数が多く、学生によって理解度に差があるという点を指摘される先生方が目立った。

「２．説明の仕方はわかりやすかったですか」という質問には「大変わかりやすい」と「わかりやすい」という回答が多かった。しかし、学生が集中して聞いていればという条件付の回答もあった。

「３．ガイダンスはLA セミナーの授業に役立ちましたか」という質問には、「大変役に立った」という回答が最も多かった。ガイダンスが図書館を利用する契機となっていることや、レポート作成の際に図書館で必要な文献を探すことができた学生が多くいた、という主旨のコメントも見受けられた。その半面、学生がインターネットに頼り、なかなか図書館に行って調べようとしない、という主旨のコメントもあった。

「４．その他、ガイダンスについて気づいたことをお聞かせください」という質問には、図書館をよく利用する学生たちから多く質問されるポイントを具体的に挙げて説明をすると、学生たちの理解がより深まるのではないか、新聞縮刷版や文庫・新書類の書架が別になっていることを伝えたほうがいい、というご意見をいただいた。また、ガイダンス時に使用したワークシートが効果的、一つ一つの検索手順を指示するよりも、例えば、「このページから～を探してみて」といったように、最初から課題を与えてみてはどうだろうか」というご意見もいただいた。

「５．今後のガイダンスについてのご意見・ご要望をお聞かせください」という質問には、図書館内で自由に本を探させたい、文献検索にもう少し時間をかけてほしい、実際に本や資料に触れさせることが重要、などと、内容や方法についての具体的な要望も少なからずいただいた。

このアンケート結果からは、多くの教員が図書館ガイダンスは学生にとって必要だと考えており、内容や説明についてはそれなりの評価をしながらも、学生によって理解度に差があると感じているということが伝わってきた。また、検索実習や図書館ツアーどちらにおいても実際に体験させるような実践型の内容を希望していることがわかった。

また、図書館にはパソコン情報環境がよく整備されたガイダンスルームが設置されていないため、明々館のパソコン教室で検索実習を行わざるを得ず、教員からも、明々館から三到図書館までの移動時間が無駄である、という改善要望もあった。これについては情報リテラシー教育の重要性が叫ばれている現代、本学でも早急な環境改善が望まれる。情報メディア室１階にガイダンスルームが設置されているが、もともと別の用途であった部屋をガイダンスルームに転用しているため、旧式の無線 LAN 環境でノートパソコンを使わざるを得ない。よって検索検索のときにうまくつながらなかったりアクセスに時間がかかるなど、スムーズなガイダンスを安定して行うことが難しい。また、LA セミナーの時間帯が５時限であることによる職員への負担もあり、可能ならば時間帯を４時限以前に移すことができればありがたいと考えている。

（３）情報検索ガイダンスその他

図書館としては、このガイダンスで、大学生として必要な基本的な図書館の使い方と検索ツールそして検索方法を習得する機会としたいと考えている。さらにできるだけこのような実践の場を設けるために、図書館では 2011 年度から図書館主催の各種ガイダンスを実施している。主なメニューは下記の通りである。

- 情報検索ガイダンス：　主に３年次ゼミを対象とする文献・情報探索ガイダンス。データベースやウェブ検索にとどまらず、参考図書の使い方、ILL（Inter-LibraryLoan：図書館間相互貸借システム）文献複写/相互貸借制度の紹介と手順などを指導している。以前から一部の教員の要望により実施してきていたが、図書館から積極的に広報・宣伝活動を行うに連れて少しずつ新たな依頼が来るようになった。とはいえ毎年のリピーターが大半

を占めており、今後もよりいっそうの広報・宣伝、この情報検索ガイダンスの必要性や効果をもっと明確にして教員の理解を得ていくことが、職員に課せられた重要な任務であると考えている。参考文献のみならず、査読を受けた論文や公的機関の調査、統計データ等を確実に効率よくアクセスするための方法は、学生がやみくもにインターネットにアクセスしても身につけることはなかなか難しい。早い段階でこれらの方法を身につけることが大切である。しかし学生たちが本格的に参考文献等をもとにしたレポートや調査を行うタイミングは、初年次よりは２～３年次であることが多い。例えば、学生たちが本格的に情報検索の方法を身につける必要性を感じた時に、この情報検索ガイダンスを受けるというタイミングが、より効果的に働くのではないかと考えている。

• 図書館主催ガイダンス：　今年度から開始した図書館主催企画。OPAC、新聞記事検索データベース、雑誌記事検索データベース、図書館ツアーなどをメニューに取り入れたガイダンスである。対象は全学年の学生を対象としている。現在は学群によって図書館利用ガイダンスを受ける機会のある学生と機会のない学生が存在する。各学群の方針によるものでもあるが、実際２年生以上になっても図書館の基本的な使い方を知らない学生が数多く存在する。かれらは、例えば３年次になってゼミ論を書く段階になっても資料の検索はおろか、図書館の使い方について殆ど無知であり、レファレンスカウンターに初歩的なことを尋ねてくる学生が後を絶たない。またかれらは、Google や Wikipedia などから情報を得ても、その真偽を確かめることもしていないのではないかと推測される。前掲の情報検索ガイダンスと異なり、あくまで自主的に参加する学生を対象としている。そのため授業やゼミ単位で参加という、いわゆる強制力が働かないため参加者はまだまだ少ない。図書館側の広報の工夫が足りないとはいえ、学生が自主的に参加しないということは、学生たちはこの図書館主催ガイダンスに魅力を感じていないからであろう。かれらは図書館に対して、本を借りる、本を読む、レポートを書く、図書館に設置された PC を利用する、という役割しか求めていないのだと思われる。ものごとを調べる方法は我流でなんとかなるものであり、いちいち職員に教えてもらうなどという意識はたぶんないのだと思われる。

• 卒論・卒研作成支援：　2011 年度から開始した、主に３～４年次の学生で卒業論文や卒業研究を選択した学生を対象に、効率のよい文献収集その他の支援を行う。卒業論文は３年次のゼミ論の延長に位置づけられるため、ゼミ論作成の支援もここに含めている。こちらも自主的に参加してくる学生が殆どだが、まだまだ参加者は少ない状況である。指導教員から薦められて受けに来たという学生も目立つため、やはりここでも教員の指示・指導が不可欠である。これからこのプログラムを活性化させるためには、まずこのプログラ

ムを受けた学生から評価されることが大切である。そのためできるだけ参加学生からの感想と評価を求めて今後の改善に役立てていきたい。ここでこのプログラムが役に立ったと学生たちから評価されることが教員の理解と協力につながるはずである。そして次回以降、学生たちに、このプログラムを受けると「役に立つ」「勉強になる」「受けておくと絶対にいい」という魅力を感じてもらうように改善していくことが重要である。

（4）今後に向けて

もう十年以上、初年次における図書館ガイダンスを実施してきた経験から、入学後の春学期に図書館の利用について指導を受けることは大切であると実感している。早い段階で図書館の利用方法について知り、その後の授業で図書館を使ってレポートを書くなどの課題を与え、いやでも図書館を利用せざるを得ない状況を作り出すことで、学生の図書館利用スキルはあがるはずである。その意味で、図書館ガイダンスだけを実施し、その後の授業で図書館を利用する機会を作らなければ、学生は図書館ガイダンスで知った知識をすぐに忘れてしまうことにつながりかねない。

私たち職員は、教員がさまざまな局面で図書館の資料（図書、雑誌、新聞、電子ジャーナル、データベース等）を使う課題を学生に与え、その結果をきちんと評価することを期待する。学生たちに、図書館を上手に使うことが自らの学習に役立つことを理解してもらえば、初年次以降の学習や専門領域での研究にも役立つことも理解できるはずである。しかしそれだけでは不十分かもしれない。私たち職員が、図書館を上手に使うことは、大げさに言えば「人生を豊かに生きるためにとても役に立つこと」なのだと学生たちに伝える努力をしていくことも必要であろう。もちろんそのためには、私たち職員も更なるスキルアップを続けていかねばならない。そして学生に対して図書館を上手に使うこと、本を読むことが、かれらの貴重な学生時代をより豊かにし、その後の人生をも豊かにする手段なのだということを、様々な手段で伝え続けていくことが重要である。